

まちの 空を見あげて

vol.19

「冬来たりなば春遠からじ」という言葉には、「明けない夜は無い」とか「降りやまぬ雨は無い」という時に感じられる希望の匂いがそこはかとなく漂っています。目の前にしんしんと降り積もる雪、冷え込む日々、時折見せる陽のぬくもりを背中に感じる幸せ、子どもたちは雪を遊び場に変え、かじかんだ手で息を白く吐きながら、せつせとこの季節を楽しんでいます。

それでも大きな季節のめぐりを思い起こせば、この雪景色も春風とともに消え去ってゆく風物詩のような愛すべき光景にも見えてきます。半紙の白と黒、その濃淡だけで世界を表す、水墨画の世界のようです。

しんと静まり返った世界のどこかで、もう春の息吹が眠りから覚めようとしています。冬の季節は暗く寒いだけでなく、新たな生命力が復活するための静けさに満ちたねむりの季節なのかもしれません。冬季除雪作業の皆様のお陰をもちまして幸せな初夢を町民の皆様と見させていただきます。感謝。

町長 田中 一史

モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.8



今月の翔たいむ担当は田村翔惟です。同僚の笹尾君に誘われて、11月に行われた「わかち愛もせうし」主催の介護劇に参加しました。

演劇は中学校以来していないので、正直かなり不安でした。実際に稽古に参加してみると、皆さん大変演技が上手で、「やっぱり参加するのをやめようかな…」なんて思いましたが、ウエイター役を与えてもらい、とりあえず台本を朗読することに。僕のセリフは少なかつたので、「これならいける」と思い参加を決めました。僕が参加したのは9月の中頃で、稽古は週2回程度、午後6時半から開始します。本番まで2か月間あり、「セリフも少ないので余裕だろう」と思っていました。相手と会話をする際の間や、このセリフはもつと得意げに話すように意識したりと、意外にも苦勞することにになりました。

10月からは動きをつけての演技。セリフは頭の中に入っていました。動きを付けると思った以上に難しい。特にワインの注ぎ方など指導を受けることもしばしばでした。11月に入ると、町民会館で小道具や大道具、照明、音響などをセットし、本番に近い形での稽



渡辺貞之監督からたくさん演技指導していただきました。

11/18 妹背牛町民会館 わかち愛劇団第7回公演

「きみといつまでも」

迎えた本番、注ぎ方も様になったでしょうか。古がスタート。僕は、グラスを運ぶのに張り付けるなど工夫しましたが、事件は起きました。本番前日、ある程度緊張感もありましたが、たくさん練習をしてきて、どこか気が抜けていた僕はグラスを落として右手を負傷。皆さんに迷惑と心配をかけてしまいました。

そして迎えた本番当日、気持ちを切り替えて臨んだ結果、仲間の息が合い、観客席からの声援もあって大成功。玄関先でお客さんを見送った際に「良かった」「感動した」などと声をかけていただき、劇を通して少しでも高齢化問題に関わることでできてうれしかったです。介護劇は今年で7回目、毎年11月に上演されました。来年もぜひ多数の皆さんが会場に足を運んでいただけると幸いです。

